保護者が守る子どもの「安心安全で賢い」ネット利用

子どもたちの安心安全で賢いネット利用を促進する「安心ネットづくり促進協議会」（安心協）は、ネットやケータイ、スマホの関連企業、有識者だけでなく日本ＰＴＡ全国協議会や消費者団体をメンバーとして、国や自治体、教育委員会、学校等の関係者も活動に参画して様々な啓発活動に取り組んでいます。

子どもたちのネット利用は、ＰＣ等よりもモバイル機器による接続の進化を通して一人ひとりの成長に深く結びつき欠かせない存在となりました。とくにネット利用を主目的とするスマホの著しい普及とゲーム機等のネット接続機能が、子どもたちのネット利用を加速させました。内閣府の調査ではケータイ等の所有率が小学生で大幅に増加しています。（表１）

また、小中学生で８割以上がゲーム機や音楽プレイヤーを使用し、その４割がネットを利用していることが判りました。

ネット利用の広がりと低年齢化は様々な可能性がある一方で心配な側面もあります。当協議会では子どもたちが賢くネットを利用して生活を豊かにし成長につながることを願う一方で、安全対策の要として「フィルタリング」を保護者がしっかり行うことを啓発しています。

ゲーム機やタブレットでは２～３割のフィルタリング利用率です。フィルタリングをしない場合、子どもたちが危険なネットサイトに接続するリスク（表２）があります。

子どもたちのネット接続の増加とともに、「わからない」といった小学生保護者のフィルタリング意識に低下がみられる傾向（表３）は、子どもたちに「見せたくないサイト」への接続リスクが高まっているといえます。

当協議会では、これらの対応を保護者がしっかり理解して、子どもたちの健全なネット利用と成長につながることを願い、日本ＰＴＡ全国協議会等と連携して全国で研修会等を開催しています。

研修会のアンケート結果では、「保護者の学びと家庭での対策の重要性」また「青少年が将来賢く使いこなすための準備が大切である」といった意見や、「教員や教育関係者がもっと勉強して対応することが必要」といった意見も多く、これらは文部科学省や内閣府と連携した研修会の実施にも反映させています。

スマホが普及する２０１２年以前は、保護者はネットについておおまかな理解があれば、具体的なフィルタリング対策や監視は企業が行っていましたが、スマホの普及とともに「自己責任」を原則とするグローバル企業の様々なサービスが登場して、子どもたちの利用が監視されていない「無料対話アプリ」等が流行しています。ネット機器が高度に進化する中で、課題の理解に努める保護者と、「わからないから」と成り行きに任せる保護者の二極化も感じられます。

機器の高度化によって、子どもを狙う悪い大人の手口も巧妙に進化しています。興味本位にリスクに近づく子どももいます。保護者の対応として、まずはそれらに接点を作らせない「フィルタリング」をネット機器に必ず付けることから始まるのではないでしょうか。

当協議会では保護者や関係者に家庭でのコミュニケーションのあり方と安心安全利用の基本を学んでもらう研修会の開催と産学官のネットワークを活用した最新の情報をホームページ等で提供しています。

保護者の皆さまの理解と意識の高まりが子どもたち一人ひとりの「グッドネット」利用につながり、未来の健全なネット利用環境に結実することを願っています。

安心ネットづくり促進協議会
http://good-net.jp

〈表１　ケータイ＆スマホ所有率〉　（%）

	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年
小学生	20.3	27.5	36.6
中学生	47.8	51.6	51.9

内閣府「平成 25 年度青少年のインターネット利用実態調査」

〈表２　フィルタリングが防ぐカテゴリ例〉

不法、薬物、アダルト、自殺、出会い、ギャンブル、飲酒、喫煙、グロテスク、オカルト

〈表３　ケータイ、スマホのフィルタリング利用率〉　（%）

		利用している	利用していない	わからない
ケータイ	小学生保護者	43.8	17.8	38.4
	中学生保護者	58.5	20.2	21.3
スマホ	小学生保護者	40.3	19.5	40.3
	中学生保護者	52.6	23.1	24.2

内閣府「平成 25 年度青少年のインターネット利用実態調査」